

# クロスメディアによる民族アイデンティティの発信

—バルガモンゴル居住地域を対象として

## Expressions of Ethnic Identities through Cross-Media

- Barga Mongolia lives in Hulunbuir

### ■ ウレン マンドウガ Wuren Manduga

愛知県立芸術大学大学院 石井晴雄研究室

*Aichi University of the Arts*

### ■ キーワード：クロスメディア バルガ族 バルガ文化 シャガイ

#### はじめに

バルガ族はモンゴルの古い支族であり、2000 年以上の歴史を誇る。現在バルガ族は主に中国の内モンゴル自治区のホロンボイル市に居住している。ホロンボイル市の北部および西北部は、アルグン川を境界としてロシア連邦、西部および西南部はモンゴル国と接する。バルガ族はホロンボイルのホロン湖とボイル湖地帯の広い草原で伝統的遊牧生活を送っている。

しかし、近年、ホロンボイル市の自然環境の悪化と近代化の影響で、町への人口流動が激しくなり、遊牧生活を送る人が少なくなっている。この現象に対して、受け継がれてきた独特の文化を失わないために、文化の伝承と発信が必要とされている。本研究では、バルガ族の伝統的な遊牧文化の飲食、住宅、日常作業、人間関係などの四つ方面の情報を収集・整理し、クロスメディアを用いて発信する。具体的には本、ポスター、ウェブサイトを作成することを通して、民族アイデンティティを表現するデザインの可能性を考察したい。

#### 1. バルガ族について

##### 1.1. バルガ族

バルガ族の起源は、7世紀に書かれた『隋書』に記載されている「拔也古」(バヤグ)まで遡ると考えられている。バルガ族は、7世紀ごろホロンボイルの西部で遊牧生活を営んでいて、9世紀にバイガル湖(今のロシア連邦の境内)の北東岸のバルグジン地方へ移住した。「バルガ」という名称は「バルグジン」の名にちなんだと考えられている。ホロンボイルのバルガ族は 1730 年代モンゴル国を経てロシア連邦から移動してきた。現代バルガ族は、モンゴル国とロシア連邦にもいるが主にホロンボイルに居住している。

ホロンボイルのバルガ族はホーチン・バルガとシン・バルガ

と二つに分けられる。ホーチン・バルガは「古いバルガ」という意味で、1732ごろまでに移住してきて、現在は主に陳バルガ旗に居住している。シン・バルガは「新しいバルガ」という意味で、1734 ごろまでに移住してきて、今主に新バルガ左旗と新バルガ右旗に居住している。旗とは内モンゴル自治区の土地と人民を編成する行政単位で、内モンゴル自治区の下にあるのが市(盟)、市(盟)の下にあるのが旗である。

本研究は、新バルガ左旗のバルガ族を研究対象にして様々な取材を行った。



図1 ホロンボイル市の地図

##### 1.2. バルガ族の伝統的文化の現状

バルガ族は、モンゴル諸族の中で遊牧の伝統的な生活をもっともよく維持している族と認められている。バルガの伝統的な結婚式、民族服装、飲食、住宅、バルガオルティンドー(長い歌)、相撲、オボー祭り、葬式、日常作業などが現代の生活にも残っており、現代文化と異なる特徴を持っている。

近年、町へ移住する人口の増加に伴い、町に住んでいる若者と子供達が伝統文化と接触する機会が少なくなり、伝統

的な文化への理解、興味が薄くなっている。草原の若者が減って、遊牧生活と伝統的な作業を営んでいる人が後継者がいないため困っている場合が多い。

この現状に対して、政府と民間組織が様々な伝統文化を宣伝するイベントが行っている。しかし、発信する伝統的媒体の魅力が足りず、効果が乏しいなどの欠点がある。それで、この二年間バルガ族の伝統文化をいくつかの媒体を連動的利用して効果的に発信する方法を考察した。

## 2. モンゴルの伝統的な玩具「シャガイ」

「シャガイ」はモンゴル語で動物のくるぶしの骨を言うが、普段「シャガイ」として遊ぶのは羊のくるぶしの骨のことが多い。2000年以上の歴史があり、モンゴルで一番広く遊ばれている玩具である。2020年度の研究では、「シャガイ」の遊び方と文化をクロスメディア的にわかりやすく面白く伝えることを目的として研究を行った。

### 2.1. 「シャガイ」の文化と遊びかた

#### 「シャガイ」の文化:

「シャガイ」についてのなぞなぞ、物語、歌は数多くあり、玩具としての役割だけでなく、民族文化の中心とも言えるだろう。

昔からモンゴルでは、出産・結婚・葬式で「シャガイ」を使う伝統がある。赤ちゃんが生まれたら、お祝いの洗礼を受けさせて、揺りかごを「シャガイ」で飾っていた。また結婚式では、新婦が羊の中足骨の細い端、新郎が太い端を握って、太陽を拝む風習がある。昔のモンゴルの葬式では、「シャガイ」を葬品として入れて、死んだ人の魂を守っていたと言う。

#### 「シャガイ」の遊び方:

「シャガイ」は4つの面にわかれ、それぞれラクダ、馬、羊、牛という名前が付けられている(図2)。「シャガイ」は遊牧生活の日常作業に基づいて様々な遊び方がある。モンゴルの子供達は、小さい頃から「シャガイ」遊びをすることを通して遊牧生活の知識を得られるだけでなく、記憶、手指スキル、智慧、反応速度などの能力を鍛えられる。「シャガイ」の遊び方は地域によって異なるが、今記録されている遊びは120を超える。



図2 「シャガイ」の4つの面

「シャガイ」の遊び方は、由来や使う技などによって以下の6つの種類に分けられる。

- 1) 遊牧生活を表した遊牧生産類。
- 2) 男の三競技に対応している民族三競技類。

- 3) 手技を鍛える類。
- 4) 遊牧生活の習慣を本にした生活習慣類。
- 5) 色々な基盤を使う基盤対局類。
- 6) なぞなぞなどの言葉遊び類。



図3 「シャガイ」のイベントで遊んでいる人達

### 2.2. 絵本「シャガイで遊ぼう」

絵本で「シャガイ」に関わる歴史・昔話・なぞなぞ・こだわり・具体的な遊び方を整理した。文字だけよりわかりやすく、記憶に残りやすいというメリットがある。また、親子で一緒に読めるだけでなく、子供自身でも楽しむことができる。

収集した情報を「シャガイ」の紹介・「シャガイ」の遊び方・「シャガイ」の文化という3項目に分けた。全体は photoshop を使って制作し、白いアートポストの紙で印刷した。サイズは 20×14cm で全部で 40 ページである。

「シャガイ」を全然知らない人でも、この絵本を順番に見れば「シャガイ」の文化を理解できる。更に「シャガイ」で遊べるようになることを目指してデザインした。



図4 絵本「シャガイで遊ぼう」

### 2.3. 英語教室のイベント

オンラインで英語教室の子供たちにシャガイの文化、遊び方を紹介して、体験させた。この後、子どもたちから色々なシャガイの絵が送られてきた。

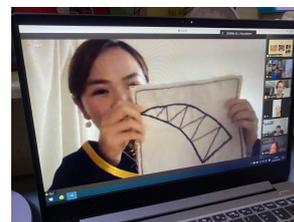


図5 シャガイの遊び方を紹介している



図6 シャガイでしりとりを遊んでいる

### 3. バルガ族の文化

2021 年度では、バルガ族の飲食文化、住宅文化、四季の重要な日常作業、人・動物・自然の関係などの 4 つの内容を本、ウェブサイト、ポスターで制作し、更に広く発信することを目指す。

#### 1) 飲食文化

バルガ料理は、伝統的に「白い食べ物」と呼ばれる乳製品と「赤い食べ物」と呼ばれる肉料理に大別される。その他、「グレーの食べ物」と呼ばれる麺、米、小麦などと「青い食べ物」と呼ばれる野生の果実、野菜などがある。

白い食べ物	牛乳搾り過程、ミルクティー・生クリーム・酸っぱいクリーム・アーロール（チーズ）・バターオイル・ヨーグルトなどの作る過程。
赤い食べ物	羊解体過程、内臓の調理する方法、肉を食べる慣習、肉の保存方法、羊オイルを作る過程。
青い食べ物	揚げ餅、ボーズ（蒸し餃子）、シャルビン、蒸した血液ビザ、干し肉麺などの作り方。
グレーの食べ物	野生のニラ花ジャムを作る過程、モイール・ウリーレ・山のさくらんぼ・野生いちご・野生ニラ・草原白いきのこなどを摘む様子の紹介。

図 7 バルガ料理

#### 2) 住宅文化

バルガ族の住んでいる丸くて移動できる住宅を「ゲル」と言う。遊牧民たちが家畜と共に移動するとき「ゲル」を解体して牛車（ラクダ）に乗せて運ぶ。「ゲル」は今まで 4000 年以上の歴史を持ち、バルガ文化の重要な一部である。

本研究では、バルガ住宅であるゲルについて遊牧生活に適した特徴、今での変遷の歴史、構造、内部空間、組み立てる過程、礼儀などの情報を収集した。

#### 3) 四季の作業

バルガ族は、昔からホロンボイルのホロン湖とボイル湖の地帯に四季に合わせて移動する、伝統的な遊牧生活を営んできた。バルガ族が遊牧する家畜は、羊、ヤギ、馬、羊、ラクダの 5 種類である。

**春:** 春は家畜の出産の季節のため、大変忙しく、家畜から目離せない。弱い赤ちゃんの家畜の世話をしたり、母親の様子を観察したりして、寝る時間がない時もよくある。春の末になったら出産が終わり、子供に焼き印で家紋を付ける。

**夏:** 夏は子牛が大きくなって草を食べるようになり、一部の牛乳が搾れるようになる。夏の間、一年間に食べる乳製品と干し肉を用意する。夏は遊牧民達の仕事が忙しくないため、様々な祭りとお祝いが行われる。

**秋:** バルガ草原の一番長くて厳しい季節は冬である。秋になったら冬を過ごすための準備に入る。秋に家畜の冬の餌である乾草を刈って蓄える。秋の末になったら冬の食糧の準備をする。通常は羊 10 頭、牛 1 頭ぐらいを屠り、それらの肉や内臓を詰め物にし、冷凍したら袋に入れておく。

**冬:** 冬は四季の中一番長い季節である。バルガ草原はマイナス 30 度ぐらいになり、雪が多いため、風を避けられる場所を選んで家畜を囲む柵などを作る。天気の良い日は雪が薄い所で家畜に放し草を食べさせるが、普段は備蓄している乾燥した草を食べさせる。冬は移動が不便だが、お正月には、親戚や友達の家を訪問し、お祝いする慣例がある。

#### 4) 関係

**自然と人:** 遊牧民達は自然の恵みを頼ったり、自然の厳しさを克服したりすることで、自然との共生のバランスを保って生きてきた。一年中移動し、四季の過ごす場所がそれぞれ違う。そこには気候の影響があり、草原を休めるという意図もある。持続的に自然の恵みをもらうために、自然を守ることを大事にして、地面を掘ったり、植物の根を傷めたり、植物の枝を折ったり、家畜を過度に食べさせたり、ゴミを捨てたりするのはいけないこととされている。

人が死んだら浅く穴を掘り、布で遺体を巻いて入れて埋めたら土をかける。墓標や冢などは作らない。死は自然に返ることなので、悲しみすぎたり、泣きすぎたりするのは縁起が悪いとされる。バルガ族はオボーを作って地域の神を祀る習慣がある。オボーとは、モンゴル民族の石、木などで作った一種のケルンである。地の神々が宿っている場所とされ、毎年祭祀が行う。

**人間関係:** バルガ族は、3 世代で同居することが多い。また、親戚の牧場と隣接しているのが一般的だ。日常作業に人の手が必要なことが多いため、お互いに手伝うことが多い。バルガの結婚式は、親戚や親友などがゲルを運んで引っ越してきて、ゲルを一行に立てて婚礼の準備と儀式をする。

**家畜と人:** 遊牧民にとって、家畜は資産であり、仲間でもある。遊牧民の幸せは、家畜が草原でゆっくり草を食べている姿を見て心が豊かになることだという。遊牧民と家畜は依存関係にあり、人が家畜の命をいただき、人が家畜の世話をする。家畜を売るときは、毛を切って残す慣習がある。

#### 4. 作品制作

本研究では以上のバルガ族の文化を、本、ウェブサイト、ポスターによって表現していく。

##### 4.1 本「階段をのぼるラクダ」



図 7 本「階段をのぼるラクダ」



図8 本「階段をのぼるラクダ」

本: 書籍は系統的に紹介でき、読む人のペースで自由に楽しめる。4章の四つの内容を盛り込み、写真、イラストと合わせて一冊の本にする。タイトルは「階段を登るラクダ」である。子供時代はずっと草原で過ごしていて、階段を登ったことがなかったが、色々な人や動物が階段を登る絵を描くのが好きだった。その中で一番好きなのは、ラクダが階段を登る絵だった。階段はその頃自分にとって広い世界に通ずるものだった。今の自分にとっては、心に通ずるものでもある。

#### 4.2. ウェブサイト



図9 ウェブサイト

ウェブサイト: 取材した映像と本の内容を載せる。本と比べて、ウェブサイトは映像を載せられ、広く発信することもできる。

#### 4.3. ポスター



図10 ゲルを立てる過程図



図11 羊を解体する図



図12 草原の四季作業の図

ポスター: ゲルを立てる過程の関係図、羊を解体する関係図、四季の作業の関係図を描く。遊牧生活の特徴は自然と家畜の恵みをいただき、自分で色々加工をすることを通して自給自足できることである。その中の様々な関係をわかりやすい絵にすれば、以下のメリットがある。

- 1) 色々な情報の関係性が一眼でわかる。
- 2) 理解しやすい、印象に残る。
- 3) 全体の情報の構成を表し、本とウェブサイトの内容へ案内できる。

#### 5. 将来構想



図13 各媒体の連動関係

現状のポスター、ウェブサイト、本に加えて将来は観光体験、SNSを連動させてクロスメディア的に連動する構造をつくりたいです。

#### 参考文献

- ・『蒙古族沙嘎文化研究』、民族出版社、2017
- ・『バルガ習俗』、内モンゴル文化出版社、2017
- ・『バルガ族の歴史』、内モンゴル出版社、2012
- ・ウルジーバト・ツアスチヘル、「モンゴルにおける伝統的な子供の遊びについての研究」、2006
- ・柏嘎力、「蒙古民族传统沙嘎游艺-以苏尼特蒙古部落沙嘎游艺为中心考察」、2010
- ・石井晴雄、「地域のクロスメディアデザインとディレクション-ながくてピクニック、犬山観光情報、犬山市の公式キャラクターわん丸君を事例として-」、2006